

平成21年 6月 8日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18730385
 研究課題名(和文) 低自尊心者の下方螺旋過程に対する独自ネットワークの効果についての検討

研究課題名(英文) The effect of nonshared social network on downward spiral processes among low self-esteem individuals.

研究代表者

長谷川 孝治 (HASEGAWA KOJI)
 信州大学・人文学部・准教授
 研究者番号：20341232

研究成果の概要：低自尊心者は、過度の安心さがし行動を採ることによって、親しい友人からの評価を引き下げ、拒絶を引き起こすという下方螺旋過程の存在が示されてきた。本研究の目的は、この不適応な対人過程が、重要他者と共有しない独自なネットワークを持つことによって解消されるかを検討することである。恋人ペアを対象とした縦断的調査の結果、低自尊心の女性が独自ネットワークを持つ場合には、恋人に対して安心さがしを行っても相手の評価を下げず、恋人から頼りにされているという相手の評価を高めることが示された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	1,500,000	0	1,500,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	330,000	3,930,000

研究分野：社会心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：自尊心, 安心さがし, 独自ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

低自尊心者は、他者との相互作用を通して、不適応状態に自ら陥る傾向にあることが、これまでの研究によって明らかにされてきた。ひとつは、低自尊心者のアイデンティティ交渉に関する研究である。これによると、低自尊心者は、自己評価と他者評価のズレを低減させる交渉において、自らの低い自己評価

に友人の評価を近づけるような交渉を行い、その結果として、精神的健康状態を悪化させていることが示された(長谷川・浦, 1998)。また、もうひとつが低自尊心者の下方螺旋過程に関する研究である。低自尊心者は、抑うつ者と同様に、他者が本当に自分のことを大切に思ってくれているかどうかを当該他者に対して繰り返し確認するという安心さがし(reassurance seeking)行動をとるとさ

れる。このような頻繁な安心さがし行動が、他者からの拒絶を引き起こし、最終的に抑うつ状態が維持されるという下方螺旋（downward spiral）過程が存在することが示されてきた（e.g., 長谷川・浦, 2002）。

以上の結果から、低自尊心者は、過度の安心さがし行動として示されるような不適応な相互作用を行うことによって、親しい友人からの評価を引き下げ、拒絶を引き起こしていることが示唆される。では、このような低自尊心者が他者からの拒絶を引き起こし、不適応に陥るプロセスを改善させる要因は存在しないのか。

この問題について考える際、重要な要因としてサポート・ネットワークの多様性と独自性が挙げられる。従来の先行研究では、多様なネットワークをもつことが、多様な対人資源の獲得につながり、個人の適応にポジティブな影響を及ぼすことが示されてきた（Hirsh, 1979）。さらに近年では、重要他者以外に自分独自の対人ネットワークを持つことが、ストレス緩和につながることが示されてきている。例えば、Renate & Milardo (2000) は、恋愛カップルの葛藤場面における第3集団の影響について検討し、カップルに共通する友人よりも、自分独自の友人の方が、自分の支持者と見なされやすいことを示した。さらに、磯部・長谷川・浦 (2004) は、大学新生の適応過程を検討し、低自尊心者が高自尊心者と友人になった場合に、その友人との上方比較を引き起こし、抑うつが高まる傾向（長谷川・磯部・浦, 2003）が、その友人以外の独自のネットワークをもつことによって、緩和されることを示した。このように、重要他者と共有しない、多様で独自のネットワークを多く持つことは、特に当該重要他者との関係において発生するストレスを低減させ、精神的健康を維持させる機能を持つことが示唆される。

2. 研究の目的

上述の対人ネットワークに関する知見と低自尊心者の下方螺旋過程に関する知見とを考え併せると、次のような基本的な仮説が成り立つ。すなわち、低自尊心者が重要他者との間で安心さがし行動のような不適応な相互作用を行ったとしても、重要他者以外の独自のネットワークを持っているならば、抑うつ傾向を高めず、適応状態を悪化させないだろうという仮説である。本研究は、この基本仮説の検討を主要な目的とする。

3. 研究の方法

従来の低自尊心者の下方螺旋過程の研究は、同性の友人ペアを対象として検討されて

きた（e.g., 長谷川・浦, 2002）。また、その基となる抑うつ者の下方螺旋過程の研究では、主に、異性の恋人や夫婦を対象として検討がなされてきた（Joiner, et al., 1993）。このような検討対象の不一致の問題を解消するために、本研究では、低自尊心者の下方螺旋過程について、抑うつ者の場合と同様に、異性関係にまで検討対象を拡大させた。具体的には、異性の恋人ペアに対する縦断的な調査を行い、低自尊心者の下方螺旋過程に対する独自ネットワークの調整効果について検討した。

4. 研究成果

(1) 同性の友人ペアを対象とした従来の低自尊心者の下方螺旋過程に関する知見が、異性ペアでも同様に見られるかを確認した。恋愛関係にある恋人ペアに対して横断的調査を行った結果、次のことが明らかになった。

①高自尊心者で安心さがしをあまり行わない男性の群が頻繁に行う群よりもパートナーの女性からの評価が高いことが示された。また、男性の安心さがし低群において、高自尊心者よりも低自尊心者の方が女性の評価が低かった。これらの結果から、男性が自分に自信を持ち、安心さがしを恋人にしない状態がパートナーの女性からの評価を高めることが示唆された。

②低自尊心者の男性が安心さがしを行う群は、行わない群よりも恋人の女性が認知する自他の一体性が低いことが示された。この結果から、男性の低自尊心者が、安心さがしを行うほど、恋人の女性が自他の一体性をより低く認知することが示唆された。これは、従来の低自尊心者の下方螺旋過程についての知見と同様のパターンを示すものである。抑うつの場合と同様に、低自尊心者の下方螺旋過程が、同性ペアだけでなく、異性ペアにおいても見出されることが明らかになった。

(2) 恋愛関係にある恋人ペアに対する縦断的調査を行った結果、次のことが明らかになった。

①安心さがしを行う低自尊心の男性は、短期的に女性の一体性認知を下げるが、長期的には低下させず、抑うつを高めることが示唆された。それに対して、安心さがしを行う高自尊心者は、長期的にパートナーの女性が認知する一体性を下げ、距離をおかれることが示唆された。

②独自ネットワークに関する分析の結果、低自尊心の女性が独自ネットワークを持つ場合には、恋人に対して安心さがしを行っても相手の評価を下げず、恋人から頼りにされているという相手の評価を高めることが示された（図1）。これは、仮説を概ね支持する

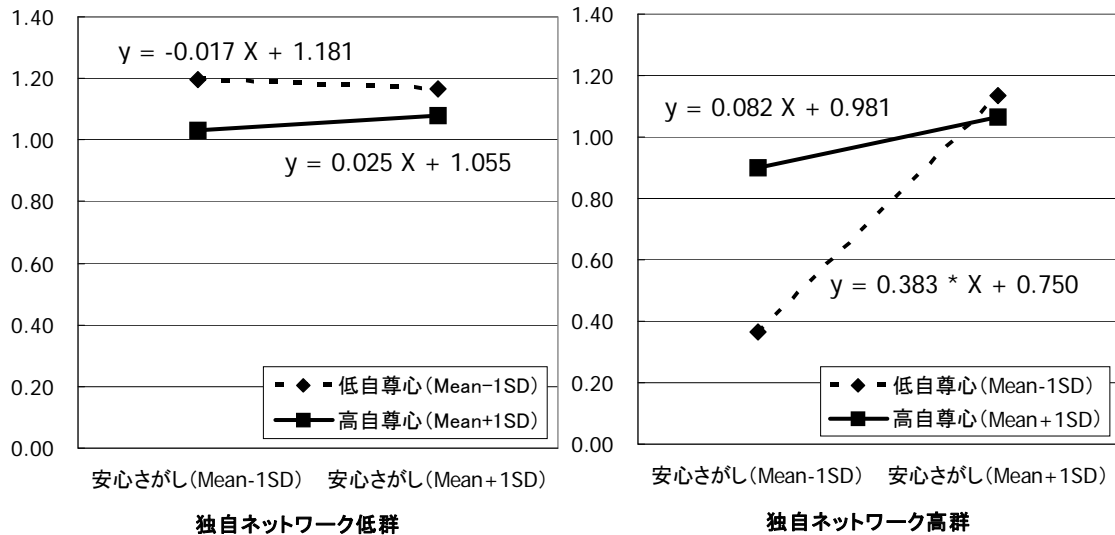


図1 男性からの評価に対する女性の自尊心×安心さがし×独自ネットワークの効果

結果であった。低自尊心者の女性で独自ネットワークを持つ場合には、安心さがししないと、逆に相手からの評価が低くなることが示された。

③男性の分析結果では、高自尊心の男性が、自分独自の友人関係をもつ中で、安心さがしを行う場合、相手の女性に対する評価を高めることが示唆された。逆に、低自尊心の男性では、独自ネットワークが小さい状態で安心さがしを行うほど、恋人に対する評価が高まることを示唆された。低自尊心の男性は、より閉鎖的な関係において安心さがしを行うほど、相手を信頼し、依存していく可能性が示唆された。

以上の結果から、恋愛関係における下方螺旋過程に対する独自ネットワークの調整効果が示された。

これらの結果は、自分に自信のない低自尊心の男性が、自分に自信のある高自尊心の女性とカップルになった場合、男性の方が女性をリードすべきであるという伝統主義的な性役割観と実際の対人行動とのズレを感じ、苦しむ可能性を示唆する。その結果、低自尊心の男性は、パートナーの女性からあまり高く評価されていないと反動的に自己評価することになってしまうと考えられる。

以上の本研究の結果は、低自尊心者の不適応な対人行動に関して、重要他者との二者関係を対象としてきた従来の知見に、ソーシャル・サポート・ネットワークに関する知見を融合させることで、適応的な対人環境とは異なるものかという問題について、新たな知見を提供しうるものである。

今後、独自ネットワークに関して、社会学

(3)異性ペアについて、相手の自尊心レベルを考慮した分析の結果、次のようなことが明らかになった。

①低自尊心の男性が、高自尊心の女性と恋愛関係にある場合、相手からどのように評価されるかという反動的自己評価が低いことが明らかにされた(図2)。これは、低自尊心の男性が、高自尊心の女性とつきあう中で、様々な形で上方比較を行う機会が増え、その結果、相手からあまり肯定的に評価されていないという認知が形成されたと解釈できる。

②低自尊心の女性と高自尊心の男性がペアになった場合には、上述したような反動的自己評価の低下は見られなかった。

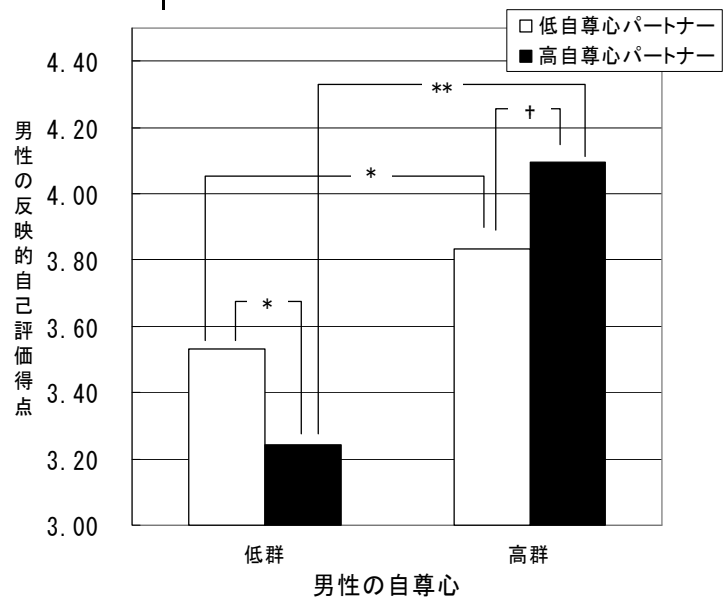


図2 男性の反動的自己評価に対する交互作用 ** $p < .01$

的なネットワーク論の観点からの検討を行い、本研究で得られた男女の独自ネットワークの効果の違いについてより詳細な検討が望まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①長谷川 孝治, 浦 光博, 前田 和寛, 自尊心と安心さがしが他者からの拒絶認知に及ぼす影響, 人文科学論集〈人間情報学科編〉, 42, 53-65, 2009, 査読無

②長谷川 孝治, 宮田加久子, 浦 光博, インターネット上の自己評価と現実の自己評価との相互影響過程についての検討: 両者のズレと精神的健康との関連の観点から, 社会心理学研究, 45-56, 23, 2007, 査読有

③長谷川 孝治, 自尊心と安心さがしが他者からの拒絶認知に及ぼす影響, 人文科学論集〈人間情報学科編〉, 42, 53-65, 2007, 査読無

④長谷川 孝治, 個別的自己評価が自尊心に及ぼす影響, 一重要性と他者からの評価の調整効果一, 人文科学論集〈人間情報学科編〉, 41, 91-103, 2007, 査読無

⑤前田 和寛, 浦 光博, 長谷川 孝治, 望ましい自己像と現実の自己像との不一致の変化が精神的健康に及ぼす影響, 総合保険科学 (広島大学保健管理センター研究論文集), 22, 17-23, 2006, 査読無

[学会発表] (計13件)

①長谷川 孝治, 自己と他者の自尊心レベルが適応に及ぼす影響 一恋愛関係における検討一, 日本社会心理学会第49回大会, 2008.11.2, かがしま県民交流センター

②長谷川 孝治, 外向・内向性がソーシャル・サポート過程に及ぼす効果, 日本心理学会第72回大会, 2008.9.20, 北海道大学

③ Hasegawa, K. & Miyazawa, S., The influence of self-esteem on psychological distance between self and other, Poster presented at the meeting of 29th International Congress of Psychology, July 23, 2008, Berlin, Germany

④長谷川 孝治, 愛着スタイルが自他の心理的距離に及ぼす影響, 日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会, 2008.6.15, 広島

大学

⑤長谷川 孝治, 低自尊心者の排斥生成過程, 日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会 シンポジウム「受容と排斥のダイナミクス」, 2008.6.15, 広島大学

⑥長谷川 孝治, 土居 知道, 恋愛関係における下方螺旋過程の検討(3) 一独自ネットワークの調整効果一, 日本社会心理学会第48回大会, 2007.9.23, 早稲田大学

⑦土居 知道, 長谷川 孝治, 恋人と共通の友人ネットワークが恋愛関係維持に及ぼす影響, 日本社会心理学会第48回大会, 2007.9.24, 早稲田大学

⑧長谷川 孝治, 恋愛関係における下方螺旋過程の検討(2), 日本心理学会第71回大会, 2007.9.18, 東洋大学

⑨Hasegawa, K., Ura, M., & Isobe, C., The influence of consistency between self-perception and partner's perception about shared social networks on relational and personal well-being, Poster presented at the meeting of the 7th conference of the Asian association of social psychology, July 27, 2007, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia

⑩長谷川 孝治, 恋愛関係における下方螺旋過程の検討, 日本グループ・ダイナミクス学会第54回大会, 2007.6.17, 名古屋大学

⑪長谷川 孝治, 浦 光博, 磯部 智加衣, 低自尊心者における下方螺旋過程についての検討(5) 一低自尊心者の高自尊パートナーに対する安心さがしが抑うつ傾向に及ぼす影響一, 日本心理学会第70回大会, 2006.11.3, 福岡国際会議場

⑫長谷川 孝治, 浦 光博, 磯部 智加衣, 安心さがしが他者からの評価に及ぼす影響 一潜在曲線モデルを用いた検討一, 日本社会心理学会第47回大会, 2006.9.17, 東北大学

⑬長谷川 孝治, 浦 光博, 磯部 智加衣, 低自尊心者における下方螺旋過程についての検討(4) 一低自尊心者の誰に対する安心さがしが、抑うつに結びつくのか一, 日本グループ・ダイナミクス学会第52回大会, 2006.5.27, 武蔵野大学

[図書] (計1件)

①小野寺 孝義 (編訳) 岩田 昇・菱村 豊・長谷川 孝治・村山 航 (訳), ナカニシヤ出

版, 基礎から学ぶマルチレベルモデル (原著: Ita G G Kreft & Jan de Leeuw 1998 Introducing Multilevel Modeling. Thousand Oaks, Ca: Sage.), 2006, Pp.1-197.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長谷川 孝治 (HASEGAWA KOJI)

信州大学・人文学部・准教授

研究者番号: 20341232

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者